

K 危険予知トレーニングで事故ゼロへ！
「いつもの道だから」という
「思い込み」による追突

Y 事故を未然に防ぐために、予測される危険や
危険を避けるための運転について考えてみましょう。



Q

どのような危険があり、どういった運転をする必要がありますか？



**交通
状況**

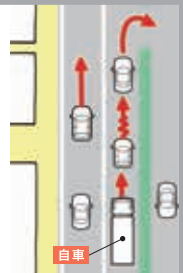
- 昼間、集荷時間がせまっているため急いで集配センターに向かっています。
- まっすぐな片側2車線道路の第2車線を、制限速度60kmで走行中です。
- 自車の前には乗用車が何台か走行しています。

A

このような危険が！

追突の危険

- ・急いでいると、知らず知らずのうちに前車に近づき車間距離が短くなる。
- ・単路[®]では、多くの追突が発生。前々車が分離帯の切れ目で転回しようと減速した場合、前車の減速に対応できない恐れがある。 ※交差点、交差点付近、踏切などを除く道路
- “交通の流れが良いまっすぐな道では、前の車は減速しないだろう”という「思い込み」が危険を招く。



このような運転を！

前方をしっかり確認

- ・一見、流れている道路でも、前車は「転回」や「側道からの合流」、「工事中」などの事情により減速することがあるので、前をよく見て運転をする。

「十分な車間距離」を保つ

- ・急ぎの心を落ち着かせ、前車の急な減速にも対応できるよう「車間距離」を保った運転をする。

トラックによる追突事故は被害が甚大に！

トラックの事故で最も多い事故類型が、「追突」です。追突事故によりドライバー（第一当事者）が死亡する割合は、追突事故以外に比べて「約2倍」と高く、また追突された側の車両も大きな被害を受けます。事故防止に向け、社内でヒヤリハット体験の話し合いや、KYTに取り組んでいきましょう。

出典：公益社団法人 全日本トラック協会「できることから始めよう！トラック追突事故防止マニュアル ～追突事故撲滅キット～（研修資料）」